

風営法から考える音楽表現の自由さについての一考察

谷口由佳里（文教大学情報学部広報学科）

1. 調査目的

本稿は、最近話題となった「風営法」（風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律）により規制されつつある日本の音楽やダンスシーンについて大学生がどのように考えているのかと、音楽の表現の自由さについて大学生がどのように考えているのかについての2つを関連させて調査したものである。

海の家ディスコ化、クラブ化が問題となり禁止されるなど、厳しい取り締まりが行われている。例えば、神奈川県逗子の海の家では2014年から音楽が完全禁止になり、その結果、海水浴場を訪れた人数が前年の1/6になったと「BUZZAP!」は記載している（Buzzap! ウェブサイト）。

1948年に、①待合、料理店、カフェーその他客席で客の接待をして客に遊興又は飲食をさせる営業、②キャバレー、ダンスホールその他設備を設けて客にダンスをさせる営業、③ビリヤード、麻雀屋その他設備を設けて客に射幸心をそそるおそれのある遊技をさせる営業を風俗営業として、これらを規制するものとして風営法が制定された。具体的には、クラブやダンスホールが買春の取引に使われている」との認識から、「＝風俗営業」とされ、「ダンスをさせること」が規制の対象となったり、新たにパチンコが付け加えられ営業に有効期限を設け更新させたりするなど、30回以上改正され続けてきた。

風営法の目的は総則の第1章-第1条に「善良な風俗と清浄な風俗環境を保持し、及び少年の健全な育成に障害を及ぼす行為を防止するため、風俗営業及び性風俗特殊営業等について、営業時間、営業区域等を制限し（中略）その業務の適正化を促進する等の措置を講ずることを目的とする」と記されている。風営法の関連業務として、ダンス飲食店、社交飲食店、パチンコ、ゲームセンター、Bar、ラウンジ、居酒屋、クラブなどである。例えば、このような状況を想像してほしい。

《仕事帰りに Bar に寄りカクテルを飲みながらジャズの演奏を聴くのが唯一の楽しみだ》、《ダンスシーンの音楽が好きでクラブで音楽を思う存分楽しみたい》、《女性アイドルの握手会で大好きなアイドルと握手してお話したい男性》などの行動や感情は社会的に規制を受けなければならないものではなく、人間が抱く自然な感情であるように感じる。ところが、《クラブは喧嘩や男女間のトラブルが多々発生する》、《アイドルの握手会は異性間での接客によりトラブルが発生しやすい》など人間の自然な欲求を取り締まろうとしているのも「風営法」ということが出来るのだ。事業者、主催者側と行政は常にこの問題について戦っている。

音楽の観点から言うと、《時間や照度（フロアの明るさ）などに決まりがなく、自由に音楽を表現できる事》を求める事業者、主催者側と、《飲酒でのトラブルや男女トラブルなどが多々起こる音楽の表現場を健全なものにすること》を求める行政では意見が食い違っていくのである。

2015年5月には新風営法が可決され、深夜24時以降のダンスが認められるなど規制が緩くなった一面もある風営法は音楽を楽しむ人々にとってより良く音楽を楽しむためのものとなっているのか。または風営法の規制によって自由に音楽を表現することができなくなっているのではないか。そして、風営法がどの程度、世間で認知され、この法が定められていることについて大学生はどのように考えているのかを調査した上で、音楽の表現に規制がある現在の状況をどのように感じるのかについて調査したものである。

今回の改正案は主にクラブ営業についてであり、現行法は客に踊りや飲食を提供するクラブの営業を原則午前0時までには制限しているが、改正法は店内が一定以上の明るさなら風俗営業から外し、24時間営業できるようにする。具体的には、飲食を提供し、客が音楽に合わせて踊るクラブについて、店内の照明が休憩時

間中の映画館と同じ程度の10ルクス超の明るさであれば、通常の飲食店として24時間営業を認める。午前0～6時に酒類を出す店は新たに「特定遊興飲食店営業」と分類し、都道府県公安委員会の許可制とする。原則24時間営業が可能になるが、自治体が条例で営業時間や営業地域を制限できるようにした。18歳未満は午後10時以降の立ち入りを禁止する。深夜営業ができるようになることで、騒音など地域住民の生活に影響が出る恐れもある。改正法は、警察署、クラブ事業者、住民らでつくる「風俗環境保全協議会」を設け、地域ごとに問題点の話し合いに努めるよう求めた。客を接待し飲食させて踊るキャバレーや、店内の明るさが10ルクス以下のクラブは引き続き風俗営業として規制する。飲食を伴わないダンス教室やダンスホールは、風営法の規制対象から外すなどの改正が行われた。(2015. 06. 17 夕刊 14 ページ 日本経済新聞 参照)

本調査では、海の家イベント、クラブでのイベント、野外フェスを主な規制と関連する音楽文化として取り入れている。まず、海を家のイベントは海岸にある海の家をライブハウスとして使用し、音楽ライブを行っており、ディスコ化、クラブ化が問題とされていた。酔っ払いが増えて治安が悪くなる、夜遅くまで重低音がうるさいなどの声が多く上げられていた。そこで神奈川県逗子海岸は2014年の夏、「海の家」の午後6時半終業、砂浜での飲酒禁止、音楽の完全禁止など、国内で最も厳しい海水浴場ルールを始めた。治安悪化を防ぐためだったが、これに伴い海水浴客も約20万人に半減し、海浜地域の活性化が新たな課題となった。2015年にもぎわいは取り戻せていない。

(2015. 10. 09 地方版/神奈川 23 頁 毎日新聞 参照) また、神奈川県藤沢市は、市内3海水浴場(片瀬東浜、片瀬西浜、辻堂)の今夏の海水浴客数が昨年より約16万人(約7%)少ない約222万人だったと発表した。同市の海の家は「クラブ化」防止を目的に、2年前から音量規制などに取り組む。浜辺の飲酒は禁止していないが、市などが客に節度ある飲酒、タトゥー(入れ墨)露出制限などを求めるガイドラインを作成。市職員が砂浜のパトロールを行い、声かけ・注意をした。(2015. 09. 11 地方版/神奈川 27 頁 毎日新聞 参照) などといった事例がある。大学のキャンパスが神奈川県茅ヶ崎市にあり、海岸も近くにあることから調査として身近に感じられると思ふ項目に入れた。

次に、クラブでのイベントは特に深夜イベントにつ

いて調査した。深夜イベントは深夜から早朝にかけて行われる音楽イベントと定義して調査を行った。クラブイベントでは男女間のトラブルや近隣への騒音などが問題になっており、クラブが近くにあると不安だという子持ちの親の意見も多く挙げられていた。深夜のクラブイベントについては風営法が制定された1948年から取り締まりの対象になっており、24時以降のダンスは認められていないなど、厳しすぎるのではないかという声も挙げられていた。クラブやダンス教室などダンス営業を規制してきた風営法の改正案が2014年10月24日に閣議決定された。法律から「ダンス」の文言をなくし、クラブ営業は店内の明るさ(照度)や営業時間に応じて規制内容を変える。現在の規制よりも明るくすれば朝までの営業も可能になり、ダンス教室は法律の適用対象から外すという大幅な内容の変更だ。今後は照度の測定方法が焦点となりそうだ。

(2014. 10. 25 東京朝刊 27 頁 総合面 毎日新聞 参照) 風営法の改正案で一番変更があったものがクラブでの営業のように思えたので項目に入れた。

最後に、野外フェスについてである。開放感のある野外にて大音量で音楽を思う存分楽しめるのが野外フェスの良さであるが、近隣との騒音問題が挙げられる。事例として、10年ほど続いていた葉山マリーナ野外ジャズコンサートが2012年7月27日、28日を最後に葉山マリーナから撤退することに決まった。神奈川県環境基本条例に定める規制基準値(条例第32条)騒音基準50デシベルを大きく上回り、最大で82デシベルの大音量を計測したという。住民から、「眠れない」、「テレビの音が聞こえない」などの苦情が出ており、撤退することになった(—CSRA— ウェブサイト)などがある。問題が起こっている回数は上記に比べて少ないが、大学生に身近なイベントだと思ふ項目に入れた。

音楽は風営法改正によって今後ますます栄えていくのではないかと感じる。趣味嗜好がそれぞれ違うように、ダンスを生きがいとしている人もいれば、ダンスはうるさいものだと感じる人もいるだろう。文化や考え方が多様になるということはそれだけ「風営法」についての考え方も多様になるということである。「風営法」は2015年5月に改正案が可決されたように、時代とともに変わり続けて行かなければならない法律であると思ふ。法律にも多様化が求められる時代なのではないだろうか。

そこで今回は、「風営法改正」という流れに乗り、音楽の表現の自由さに関して大学生がどのように考えているかの意識調査を行った。

2. 調査方法

1 で述べた本稿の目的を調査するために文教大学湘南キャンパス、情報学部と国際学部の授業内で筆記式のアンケート調査「音楽に関する調査」を行った。

1) 調査対象

本調査は、2015年11月27日金曜日に行われた文教大学情報学部の加藤哲郎先生が担当されている、「メディアリテラシー」と2015年11月30日月曜日に行われた文教大学国際学部の山脇千賀子が担当されている、「国際学研究A」を履修している学生を対象に集合調査を行った。

2) 調査項目

- ①個人の属性について
 - ②地域の興味のあるニュースや地域で起こった問題について
 - ③音楽イベントへの参加の有無や参加した理由について
 - ④音楽に関する風営法の認知度やどの程度詳細を認知しているかについて
 - ⑤音楽に関する風営法への意見について規制されるべきか自由に表現されるべきか
 - ⑥身近な規制からどの程度の自由というもの自体をどの程度を求めているかについて
 - ⑦法律について関心を持っていそうな政治的・文化的活動やそれらへの興味について
- 大きく分けてこの7つについて調査した。

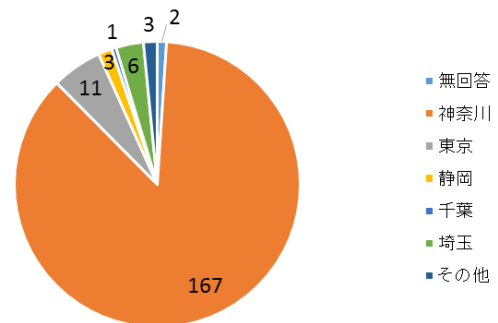
配布数は204、回収率は100パーセント、無効数が12であり、分析対象者は192名である。本調査の概要については以下の通りである。

3. 調査結果

3-1. 触れているニュースについて

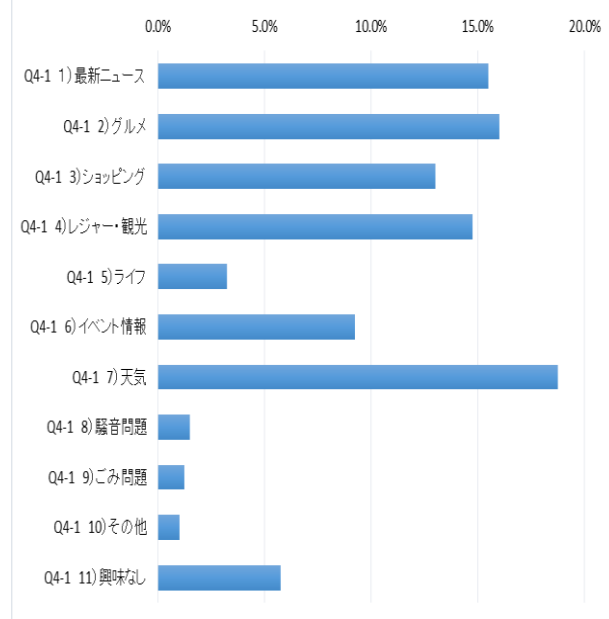
調査した193名の回答者の年齢は18～24歳で男性47.9%、女性51.5%で、年齢の平均は19.65歳であった。「現在住んでいる地域」は神奈川が167人と一番多い結果となった。回答者の所属する文教大学湘南校舎が神奈川に所在しているからだと考えられる、また非該当には群馬県という回答があった。

図表-1 現在住んでいる地域(人)



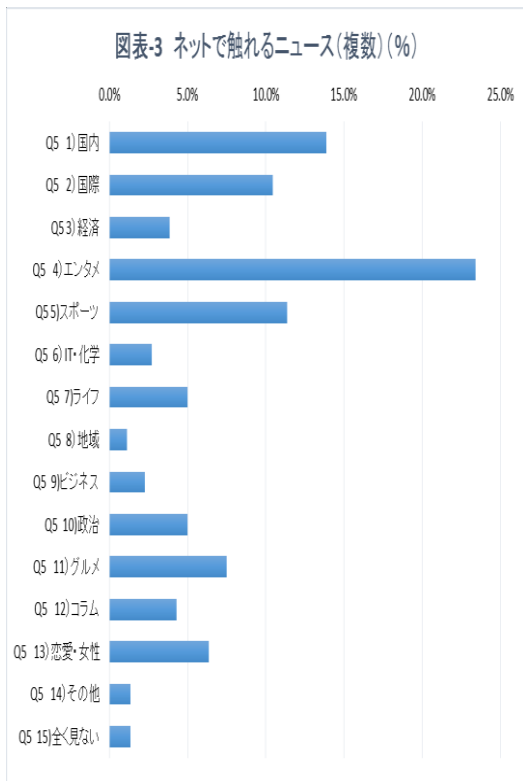
「住んでいる地域で気にしているニュース」は「天気」と回答した人が一番多く続いて「グルメ」、「最新ニュース」と続いた。その他には「就職情報」等のビジネスなどが含まれていた。

図表-2 住んでいる地域の気になるニュース(複数)(%)



「インターネット (SNS 含む) やスマートフォンで1番触れているニュース」は、「エンタメ」と回答した人

が1番多かった。その他にはサブカルチャーなどの情報という回答があった。



現在、「住んでいる地域で気にしているニュース」でも、「SNSで1番触れているニュース」でも「政治」についての関心は全体的に少ない事が分かった。男性か女性かの違いによって政治興味に違いがあるかどうかのt検定を行ったところ男女で有意差は見られなかった。政治の考え方は男女で差が見られて良いようなものでもないので、このような結果は当然の結果ではないかと考えた。

3-2.

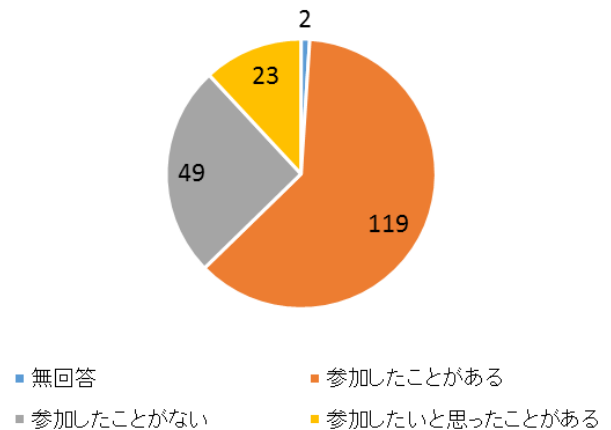
自由に関する考えと政治的・文化的活動について

規制があった方が良いか、自由がよいかについて調べるために身近な項目でも調査してみたところ、全項目でどちらかというとも自由が良いという平均になった。婚約相手が1番自由に選べた方が良いと考えている人が多かった。(1に近いほど自由が良いと考えており、5に近いほど規制や制約が必要だと考えている)



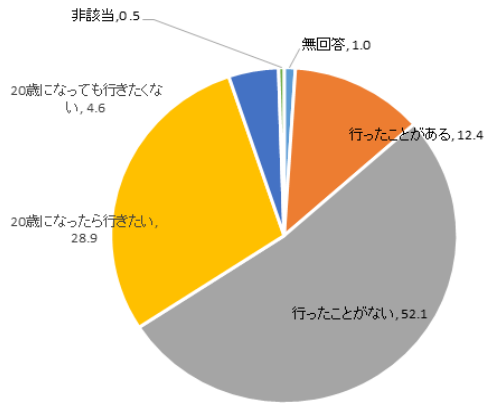
ボランティアの参加経験がある、または参加したいと思った事がある人が、142人で半数を大きく上回っていた。ボランティア参加経験者はゴミ拾いなどの経験により、海の家のごみ問題などの現状を知っている人も多く、風営法について興味がある人が多いのではないかと考えていたのだが、関係性は見られなかった。

図表-5 ボランティア参加経験(人)



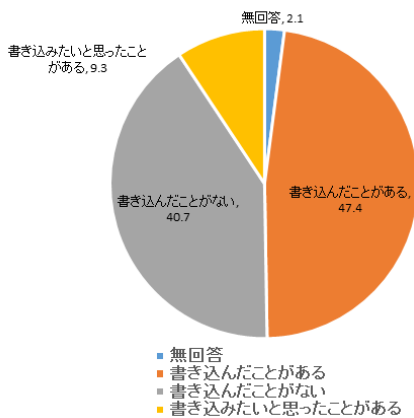
選挙に行った事がある人の割合は全体の12.4%で、20歳になったら参加したいと回答した人が28.9%であった。(全体の41.3%)、行った事がないと回答した人が、52.1%、20歳になっても参加したくないと回答した人が、4.6%(全体の56.7%)で、選挙に参加意欲のない人の方が多いことが分かった。非該当には2つ以上丸を付けていた人が含まれる。

図表-6 選挙 (%)



では選挙で自らの意見を表明しない人は元々そのような人たちなのであろうか。SNS への自分の意見の書き込み経験について調査したところ、経験ありと回答した人が 92 人、経験なしと回答した人が 79 人、書き込みたいと思ったことがある人は 18 人であった。このことから自分の意見を表明する意思がある人は多い事が分かった。簡単に、更に身近に自分の意見を書き込める事により経験者が多くなるのだと考えた。

図表-7 SNS書き込み (%)

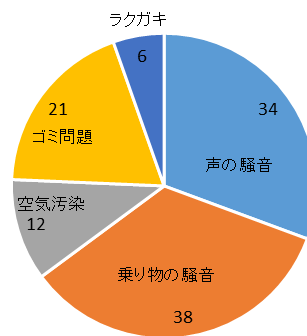


3-3. 住んでいる地域で起こっている問題について

「住んでいる地域で気になった問題」について、「声の騒音」が気になったことがある人は 34 名 (17.5%) でどのような問題かについての自由回答では、「夜中に酔っぱらいがうるさい」や、「隣の家の大学生が夜中に飲み会で騒いでいる」などといった回答があった。「乗り物騒音」については気になったことがある人は 38 名 (19.6%) で、ほとんどの自由回答での意見が、「厚木

基地の戦闘機」に関してのものであった。「空気汚染」に関しては、気になったことがある人は 12 人 (6.2%) で自由回答では、「工場が近くにあるから」などといった回答が見られた。「ゴミ問題」が気になったことがある人は 21 人 (10.8%) で、「ポイ捨てが気になる」などという回答が多く見られた。最後に、「ラクガキ」が気になったことがある人は 6 人 (3.1%) で「近所のトンネルのラクガキが問題になったことがあった」などといった自由回答があった。ここから、現在住んでいる地域で、規制が必要とされる出来事に触れている人は少なくないことが分かる。

図表-8 住んでいる地域で気になったことがある問題(人)



3-4. 風営法に関わるイベントについて

「海の家音楽イベント」に行ったことがある人は 193 人中 20 人で、行ったことが無い人が 172 人と大半であった。非該当は 2 つに丸を付けていた回答者である。(以下、単一回答の設問で、2 つに丸を付けていた場合は、非該当としてある)「海の家音楽イベント」に行った理由としては、「出演者が好きだから」という理由が一番多く見られた。「深夜イベント」(23 時から早朝までやるようなイベント)に行ったことがある人は 193 人中 22 人、行ったことが無い人は 158 人であった。深夜イベント」に行った理由として、「出演者が好き」という回答に続いて、「付き合い」という回答が多かった。「野外フェス」に行ったことがある人は 193 人中 51 人で行ったことが無い人は 139 人だった。「野外フェス」に行った理由として、「出演者が好き」という理由が一番多く見られた。

図表-9 各イベントに行った理由

海の家イベント		深夜イベント		野外フェス	
出演者が好き	39.3%	出演者が好き	35.3%	出演者が好き	48.8%
海もイベントも楽しみたい	17.9%	飲みたい気分	5.9%	開放的になりたい	3.8%
はしゃぎたい気分	3.6%	はしゃぎたい気分	11.8%	はしゃぎたい気分	11.3%
出演者が知り合い	0.0%	出演者が知り合い	11.8%	出演者が知り合い	2.5%
付き合い	21.4%	付き合い	20.6%	付き合い	13.8%
夏らしい	10.7%	夜に踊りたいから	5.9%	大きな音で楽しみたいから	10.0%
そのイベントが好き	3.6%	そのイベントが好き	2.9%	そのイベントが好き	6.3%
その他	3.6%	その他	5.9%	その他	3.7%

次に、「海を家のクラブ化、ディスコ化」が問題になっている事を知っているか尋ねた結果、知らないと回答した人が、56.6%と半分以上を占めている事が分かった。また、「海を家の騒音問題」を知っているか尋ねた結果、海を家の騒音が問題になっていることを知らないと回答した人が50.6%と全体の半分以上を占めていることが分かった。更に、「一部の海の家で音楽が完全禁止」になった事例を知っているか尋ねた結果、知らない人と回答した人が、57.7%と半数以上占めている事が分かった。次に、「深夜営業のクラブのフロアの明るさ（照度）」に規制が設けられていることを知っているか尋ねた結果、知らないと回答した人は82.5%、「フロアの広さ」に規制が設けられている事を知っているか尋ねた結果、知らないと回答した人は86.0%とこれらも大半の人が知らないという結果になった。日本で「24時以降のダンスが規制」されていた事例を知っているか尋ねた結果、知らなかった人の割合はこちらも多く84.9%であった。最後に「野外フェスの騒音問題」について知っているか尋ねた結果、知らないと回答した人は60.9%と半数以上を占めていた。

図表-10 各イベントの問題で話題になったこと

	海の家			深夜営業店			野外フェス
	クラブ化	騒音	音楽禁止	照度	広さ	ダンス	騒音
知っている	24.4%	27.2%	20.9%	12.9%	8.7%	10.5%	23.0%
話題になった	1.6%	2.8%	2.7%	1.2%	2.3%	0.6%	0.6%
ニュースで見た	14.3%	15.0%	14.8%	3.5%	2.3%	3.5%	10.3%
ネットで見た	3.3%	4.4%	3.8%	0.0%	0.6%	0.6%	5.2%
知らない	56.6%	50.6%	57.7%	82.5%	86.0%	84.9%	60.9%

海の家、深夜営業店、野外フェス共に大半の人に各規制が認知されていないことが分かった。

3-5. 規制についてどのように考えるかについて

1) 24時以降のダンス規制についての考え

24時以降のダンスが規制されていたことに関連して、「ダンスの規制が必要だと思うか、不必要だと思うか」に関して5段階で意識をたずねた。必要、どちらかと言えば必要」と考えている人が70人、「不必要、どちらかというとな必要」と考えている人が45人、「どちらともいえない」と回答した人が73人であった。「深夜イベントに行ったことがあるかないか」に分けて違いがあるかどうかt検定をしたところ、行ったことがある人の平均は3.41で行ったことがない人の平均が2.61であった。有意差を見ることがあり、行ったことがある人の方がどちらかというとな必要と考えている人が多いことが分かった。

24時以降のダンスが規制されていたことに関連して、「24時以降にダンスを行うことが問題かどうか」の意識を尋ねたところ、「問題ない、どちらかといえば問題ない」と回答した人が67人、「問題である、どちらかといえば問題」と回答した人が48人、「どちらともいえない」と回答した人が74人であった。イベント参加経験によって意識に差があるか統計的に検定したが、有意差は見られなかった。

24時以降のダンスが規制されることによって、「ダンスや音楽の幅が狭まると思うか変わらないか」についての意識を尋ねたところ、「狭まる、どちらかというとな狭まる」と回答した人が52人、「変わらない、どちらかというとな変わらない」と回答した人と回答した人が58人、「どちらともいえない」と回答した人が79人であった。イベント参加経験によって意識に差があるか統計的に検定したが、有意差は見られなかった。

「24時以降のダンスが規制される規制は厳しいと思うか思わないか」についての意識を尋ねたところ、「厳しいと思う、どちらかとい

うと厳しいと思う」と回答した人が 54 人、「緩い、どちらかという緩い」と回答した人が 24 人、「どちらともいえない」と回答した人が 113 人であった。イベント参加経験によって意識に差があるか統計的に検定したが、有意差は見られなかった。

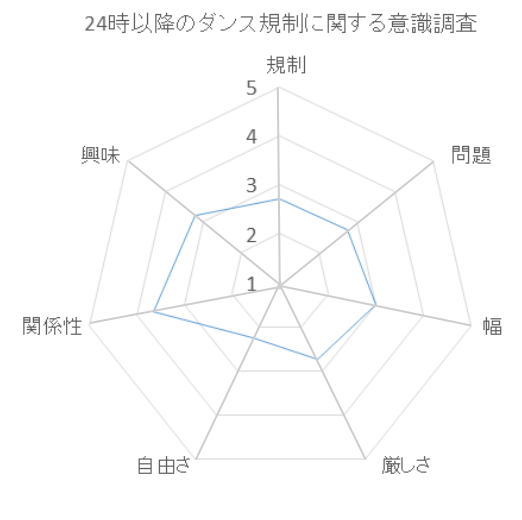
「ダンスや音楽の表現の自由についてどう思うか」についての意識を尋ねたところ、「自由に表現されるべきだ、どちらかという自由に表現されるべきだ」と回答した人が 97 人、「規制が必要、どちらかという規制が必要」と回答した人が 12 人、「どちらともいえない」と回答した人が 80 人であった。イベント参加経験によって意識に差があるか統計的に検定したが、有意差は見られなかった。

「24 時以降のダンスが規制される規制は自分に関係があると思うかどうか」についての意識を尋ねたところ、「関係ある、どちらかという関係ある」と回答した人が 31 人、「関係ない、どちらかという関係ない」と回答した人が 83 人、「どちらともいえない」と回答した人が 75 人であった。イベント参加経験によって意識に差があるか統計的に検定したが、有意差は見られなかった。

「24 時以降のダンスが規制される規制に興味を持ったかどうか」についての意識を尋ねたところ、「興味を持った、どちらかという興味を持った」と回答した人が 42 人、「興味ない、どちらかという興味ない」と回答した人が 76 人、「どちらともいえない」と回答した人が 46 人であった。イベント参加経験によって意識に差があるかも統計的に検定したが、有意差は見られなかった。

24 時以降のダンスが規制されていたことについて、性別で有意差があったものは「興味」についてだけであった。男性よりも女性の方がダンスへの規制に興味がないという解釈が出来た。

図表 - 11



上記のグラフは、24 時以降のダンス規制に関する意識についての調査 7 項目を 5 段階評価で表したレーダーチャートである。平均的に「どちらでもない」と回答した 3 の平均に近いが、中でも 24 時以降のダンス規制について、自由さについての平均は低く、自由である方が良いと考えている人が多いことがわかる。自分との関係性については平均よりも高く自分とは関係ないと回答した人が多かったことが読み取れる。

2) 海の家規制についての考え

「海の家についての規制が必要だと思うかどうか」についての調査を行ったところ、「必要だと思う、どちらかという必要だと思う」と回答した人が 81 人、「不要である、どちらかという不要である」と回答した人が 33 人、「どちらともいえない」と回答した人が 74 人であった。「海の家イベントに行ったことがあるかないか」に分けて違いがあるかどうか t 検定をしたところ、行ったことがある人の平均は 3.41 で行ったことがない人の平均は、2.46 であった。有意差が見られ、行ったことがある人はない人に比べて、どちらかという規制は必要ではないと考えている人が多いことが分かった。行ったことがある人は、自分が海の家イベントに行ったときにクラブ化や騒音を問題だと思わなかったためにこのような結果に繋がったのではないかと思う。

「海の家ライブハウス営業が問題だと思うかどうか」についての調査を行ったところ、「問題ない、どちらかという問題ない」と思うと回答した人が45人、「問題である、どちらかという問題である」と回答した人が59人、「どちらともいえない」と回答した人が88人であった。「海の家イベントに行ったことがあるかないか」に分けて違いがあるかどうかt検定をしたところ、行ったことがある人の平均は2.73で行ったことがない人の平均は、3.16であった。有意差が見られ、行ったことがあるひとはない人に比べて、海の家ライブハウス営業は問題ないと思える人が多いことが分かった。

「海の家ライブハウス営業規制で夏の遊びの幅が狭まると思うかどうか」についての調査を行ったところ、「狭まる、どちらかという狭まる」と思うと回答した人が54人、「変わらない、どちらかという変わらない」と思うと回答した人が52人、「どちらともいえない」と回答した人が84人であった。イベント参加経験によって意識に差があるか統計的に検定したが、有意差は見られなかった。

「海の家ライブハウス営業規制は厳しいと思うかどうか」についての調査を行ったところ、「厳しい、どちらかという厳しい」と回答した人が43人、「緩い、どちらかという緩い」と回答した人が35人、「どちらともいえない」と回答した人が112人であった。イベント参加経験によって意識に差があるか統計的に検定したが、有意差は見られなかった。

「海の家ライブハウスは自由に営業されるべきかどうか」についての意識調査を行ったところ、「自由に営業されるべき、どちらかという自由に営業されるべき」と回答した人が45人、「規制は必要、どちらかという規制は必要」と回答した人が62人、「どちらともいえない」と回答した人が84人であった。イベント参加経験によって意識に差があるか統計的に検定したが、有意差は見られなかった。

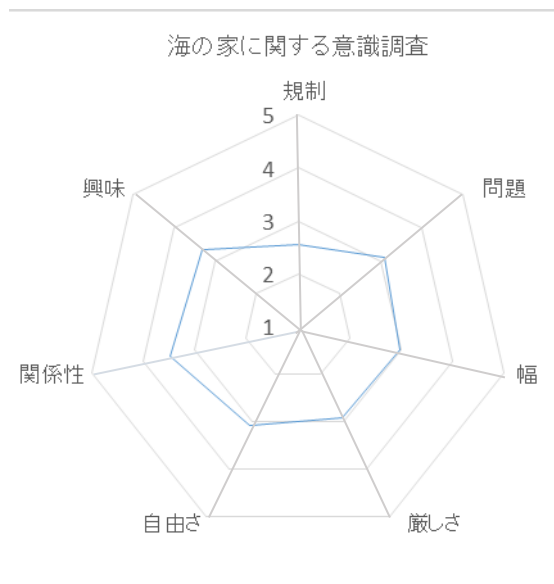
「海の家ライブハウス営業規制が自分に関係あると思うかどうか」についての意識調査を行ったところ、「関係ある、どちらかという関係ある」と回答した人が30人、「関係ない、どちらかという関係ない」と

回答した人が84人、「どちらともいえない」と回答した人が77人であった。イベント参加経験によって意識に差があるか統計的に検定したが、有意差は見られなかった。

「海の家ライブハウス営業規制に興味を持ったかどうか」についての意識調査を行ったところ、「興味を持った、どちらかという興味を持った」と回答した人が33人、「興味ない、どちらかという興味ない」と回答した人が66人、「どちらともいえない」と回答した人が92人であった。イベント参加経験によって意識に差があるか統計的に検定したが、有意差は見られなかった。

海の家規制について男女で有意差があったのは「夏の遊びの幅」についてだけであった。男性は女性よりも幅が狭まらないと思っている人が多いと解釈することが出来た。

図表 - 12



上記のグラフは、海の家規制に関する意識についての調査7項目を5段階評価で表したレーダーチャートである。全体的に「どちらでもない」3の数値に近くになっているが、海の家規制について「興味」や「関係性」が平均よりも高く、興味や関係性が自分にはないと思っている人が多いことが読み取れる。また、「規制」については平均よりも低く海の家規制は必要だと考えている人が多いことが読み取れる。

3) 野外フェス規制についての考え

「野外フェス規制が必要だと思うかどうか」についての意識調査を行ったところ、「必要、どちらかという必要」と回答した人が50人、「不要、どちらかという不要」と回答した人が62人、「どちらともいえない」と回答した人が77人であった。イベント参加経験によって意識に差があるか統計的に検定したが、有意差は見られなかった。

「野外フェスを行うことが問題だと思うかどうか」についての意識調査を行ったところ、「問題でない、どちらかという問題でない」と回答した人が104人、「問題である、どちらかという問題である」と回答した人が13人、「どちらともいえない」と回答した人が73人であった。イベント参加経験によって意識に差があるか統計的に検定したが、有意差は見られなかった。

「野外フェス規制でダンスや音楽の幅が狭まると思うかどうか」についての意識調査を行ったところ、「狭まる、どちらかという狭まる」と回答した人が78人、「変わらない、どちらかという変わらない」と回答した人が38人、「どちらともいえない」と回答した人が74人であった。「野外イベントに行ったことがあるかないか」に分けて違いがあるかどうかt検定をしたところ、行ったことがある人の平均は2.18で行ったことがない人の平均は2.81であった。有意差が見られ、行ったことがある人の方がいない人より、どちらかというダンスや音楽の幅が狭まると考えている人が多い事が分かった。

「野外フェス規制が厳しいと思うかどうか」についての意識調査を行ったところ、「厳しい、どちらかという厳しい」と回答した人が63人、「緩い、どちらかという緩い」と回答した人が24人、「どちらともいえない」と回答した人が104人であった。イベント参加経験によって意識に差があるか統計的に検定したが、有意差は見られなかった。

「野外フェスで音楽やダンスは自由に表現されるべきだと思うかどうか」についての意識調査を行ったところ、「自由に表現されるべき、どちらかという自由に表現されるべき」と回答した人が101人、「規制が必

要、どちらかという規制が必要」と回答した人が14人、「どちらともいえない」と回答した人が75人であった。

イベント参加経験によって意識に差があるか統計的に検定したが、有意差は見られなかった。

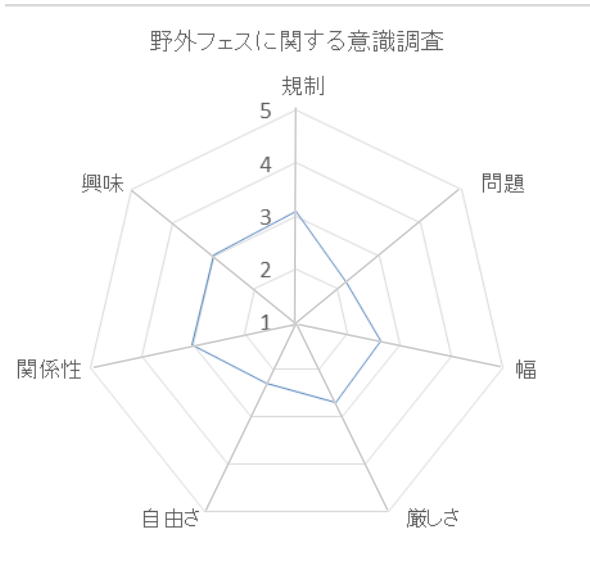
「野外フェス規制が自分と関係していると思うかどうか」についての意識調査を行ったところ、「関係ある、どちらかという関係ある」と回答した人が52人、「関係ない、どちらかという関係ない」と回答した人が56人、「どちらともいえない」と回答した人が83人であった。野外イベントに行ったことがあるかないかに分けて違いがあるかどうかt検定をしたところ、行ったことがある人の平均は2.47で、行ったことがない人の平均は3.24であった。有意差が見られ、行ったことがある人の方がいない人に比べて、どちらかという自分に関係あると考えている人が多いことが分かった。

「野外フェス規制に興味を持ったかどうか」についての意識調査を行ったところ、「興味を持った、どちらかという興味を持った」と回答した人が51人、「興味ない、どちらかという興味ない」と回答した人が46人、「どちらともいえない」と回答した人が93人であった。野外イベントに行ったことがあるかないかに分けて違いがあるかどうかt検定をしたところ、行ったことがある人の平均は2.63で行ったことがない人の平均は3.16であった。有意差が見られ、行ったことがある人がいない人に比べて、どちらかという興味を持った人が多いことが分かった。

野外フェスの規制について男女で有意差があったもので、「問題」については男性より女性の方が野外フェスを行うことは問題ないと考えていると解釈できた。次に、「ダンスや音楽の幅」について、男性は女性よりも幅が狭まらないと思っている人が多いと解釈することが出来た。「厳しさ」については、男性は女性よりもこの野外フェスの規制が緩いと考えていると解釈することができた。また、「表現の自由さ」に関しては、男性は女性よりもダンスや音楽に規制が必要だと考えていると解釈することができる。最後に、「興味」について、男性は女性よりも興味がないと思っている人が多いと解釈することができる。以上のことから、全体的に野外フェス規制に関する意識は男性の方が、野外フ

エスの規制に関してどちらかという必要だと考えている人が多いことが分かった。

図表 - 13



上記のグラフは、野外フェス規制に関する意識についての調査7項目を5段階評価で表したレーダーチャートである。「問題」と「自由さ」は平均よりも低く、野外フェスが行われることは問題ないと考えている人や、ダンスや音楽は自由に表現されるべきだと考えている人が多いことが読み取れる。

最後に、24時以降のダンス規制、海の家規制、野外フェス規制のどの項目でも年齢によって意識に差があるか統計的に検定したが、有意差は見られなかった。

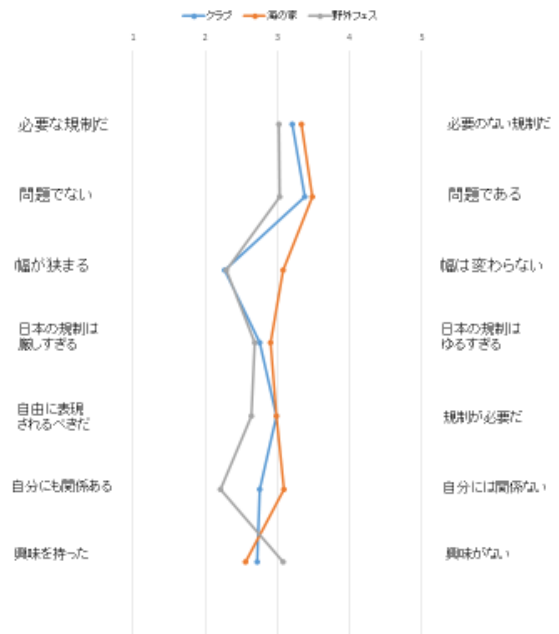
3-6. イベントによっての考え方の違いについて

ここで更に、「クラブイベント」、「海を家のイベント」、「野外フェス」でそれぞれ考え方が異なるのか調査したところ、すべての項目で有意差を確認することができ、イベントによって規制についての考え方が異なることが分かった。特徴的だったのは、「クラブ」と「野外フェス」が規制されると「ダンスや音楽の幅」は狭まると考えている人が多い一方で、「海の家」では「夏の遊びの幅」が変わらないと考えている人が多いことが分かった。「野外フェスの規制」は自分にも「関係」があると考えた人が多く、逆に「海を家の規制」は自分には「関係ない」と考えている人が多いようだ。こ

れに関して、「野外フェス」に行ったことがある人が多かったこともあり、自分にも「関係」があると考えた人が多かったのだと考察した。

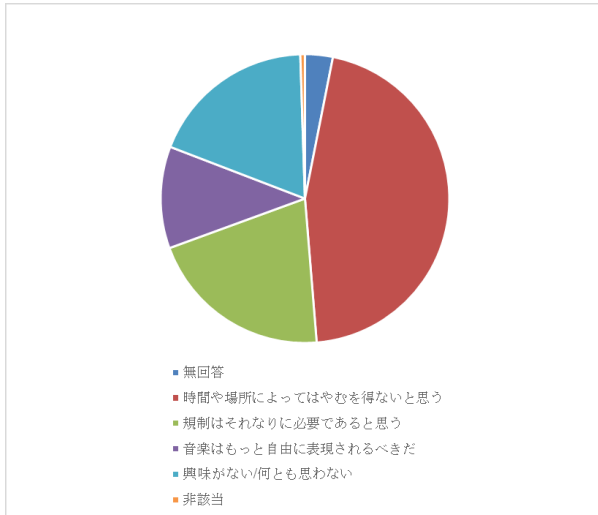
図表 - 14

音楽イベントについての考え方
平均値比較



図表 - 4 (身近な自由さに関するグラフ) では、どの項目でも自由が良いと回答していた人が多かったにも関わらず風営法に関する考えでは風営法についてどう考えるかについて半数近くの人が時間や場所によってはやむを得ないと考えている事が分かった。このような自分は自由でありたいが、他のもので規制が進んでも構わないというような考えはやむを得ないとはいえ、自分にも関わる規制になり得るので、自分に関係ないからという理由だけで規制されても良いと考えるのは少し自分勝手な考え方でもあるなど考えた。

図表 - 15 法への考え



海の家・野外フェス・深夜イベントの参加経験有無に関する質問項目を使ってサンプルを分類するクラスター分析を行った。イベントの参加の度合いを示すクラスターである。その方法はward法による分析であり、データはZ得点で標準化し、2つのクラスターにサンプルを分類した。さらにサンプルのクラスターを独立変数として、野外フェスの規制への意識に影響を及ぼしているかお一元配置分析を行ったところ下記のような結果が見られた。基本的には、イベントに行ったことがある人とない人に分けられている。野外フェスに行った事がある人の方がいない人に比べて規制は必要でないと考えている事が分かった。また、野外フェスに行った事がある人の方がいない人に比べてダンスや音楽の幅は音楽やダンスの幅が狭まると思っている人が多い。更に、野外フェスに行った事がある人の方がいない人に比べて野外フェスの規制が自分にも関係あると思っている人が多いことも分かった。最後に、野外フェスに行った事がある人の方がいない人に比べて野外フェスの規制に興味を持った人が多かった。以上のことから、野外フェスに行った事がある人の方がいない人よりも自分と野外フェスが近い存在であるためこのような結果に結びついたのではないだろうか。

4. 考察・まとめ

まず、調査の目的としていた、「風営法の認知度」と「風営法を知った上で音楽の表現の自由さをどのように思うか」について、風営法については、クラブ、海の家、野外フェスとも規制されている内容を知らない

と回答した人が多かったことから認知度は低いのではないかと考える。この背景として、男女とも地域のニュースに関して、政治を気にしている人が少なく、地域と親密に結びつく風営法に関して知らない人が多いのではないかと、調査対象者の年齢平均が若かったこともあり、音楽のライブに行く（特にクラブ）機会や経験が少なく、経験の中で風営法という言葉に触れる機会が少なかったのではないかと考えた。風営法の規制を回答していく中で多少理解した調査対象者は、表現の自由さに関して、規制が必要であると考えた人が多い事が分かった。その中で、1番参加した経験者が多かった野外フェスへの規制が自分に関係あると思った人や、興味を持った人が多く、逆に1番参加経験が少なかった海の家イベントは自分に関係ないと思った人が多かった事が印象的で自分に身近なものは考え方が特別になるのだろう。そこで、帰る時間や校則などより身近な項目で自由がよいかどうかの調査をしたところ、身近な項目だと自由が良いと考えている人が圧倒的に多かったことから先述したように考察できる。

まとめとして、風営法の認知度が浸透していない事は問題だと思う。クラブや海の家、または音楽イベント以外にもカラオケや麻雀などに行く人、興味がある人だけでなく、誰でも加害者にも被害者にもなり得る可能性があるのだから、風営法について知っておくことが自分や地域を守るためには必要なのではないだろうか。表現したい音楽やダンスについても風営法を知っているというだけで幅は変わってくるのではないだろうか。

時代が変化するとともに、人々の考えも多様化していくものだ。今は自由のほうが良いと考えている項目も時代の流れや、個人の興味・経験によって変化していくだろう。考え方が多様化するという事は、それだけ法律に関しての考え方も多様化するという事である。ということは、序論でも述べたように、風営法も時代や人の考え方が多様化するとともに変化していかなければならないものである。

今回調査した、風営法と音楽の表現の自由さに関しても同じように変化して行くものである。風営法の改正案が出来たばかりではあるが、風営法が変化していくとともに、音楽やダンスの表現者・音楽イベントのオーガナイザーと地域住民・政府との距離が縮まるものであれば良いと感じる。そのためにはまずお互い

が歩み寄り、風営法について知ることも大切なのだろう。

引用文献

1) 風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律

<http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S23/S23H0122.html>

2015年6月11日閲覧

2) 風営法のひろば

<http://cozylaw.com/fu-teki/>

2015年6月11日閲覧

3) 「BUZZAP!」ウェブサイト

<http://buzzap.jp/>

2015年6月23日閲覧

4) 「CSRA」ウェブサイト

<http://csra.fm/>

2016年1月20日閲覧

5) 毎日新聞

因幡健悦 (2015) 「光の波:再び あすから逗子海岸で」,
神奈川県地方版 2015年10月09日付 (23)

塚本泉 (2015) 「藤沢市内3海水浴場:今夏の海水浴客
減 天候不順続いた」 神奈川県地方版 2015年9月11
日日付 (27)

長谷川豊 (2015) 「風営法改正案:クラブ規制緩和 照
度の測定法、焦点に ダンス教室対象外」 2014年10
月25日 東京朝刊 (27)

6) 日本経済新聞

「クラブ24時間営業可能、改正法成立、一定の明るさ
条件」, 2015年6月17日付夕刊, (14) .

音楽に関する意識調査

調査員：情報学部広報学科3年

谷口 由佳里

担当教員：日吉昭彦

本調査は「社会調査Ⅲ」の授業の一環として行うものです。回答内容を本調査の目的以外で使用することはありません。授業時間を頂戴し誠に恐縮ですが、ご協力よろしくお願いいたします。

ご記入にあたってのお願い

1. 調査票を受け取った本人がご回答ください。
2. お答えになりにくい質問は無回答で構いませんが、なるべく該当する全ての質問にお答えください。
3. 回答結果はグラフや教表として表現し、個人がどのような回答をしたのが公表することはありません。どうぞありのままをお答えください。
4. それぞれの質問の指示に従ってご回答ください。
特に指定のない限り、当てはまる番号に○をつけてご回答ください。
5. ご記入は黒色の筆記用具でお願いいたします。
6. 回答を訂正する場合は消しゴムや×印を用い、訂正したことを明示してください。
7. ご不明な点がございましたら、お気軽に調査員にお尋ねください。

④アンケートで得た情報は、授業内でのみ使用し、統計的な分析を行うため個人の情報が流出することはありません。

Q1 性別を教えてください。

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 男性 (47.9%) | 2. 女性 (51.5%) |
|---------------|---------------|

Q2 あなたが現在所属している学部・学科を教えてください。

学部	学科
----	----

Q3 あなたの年齢を教えてください。

19.65	歳
-------	---

Q4 現在の住まいはどこですか。

- | | | | | | |
|---------------|-------------|---------|------------|------------|-------------|
| 1. 神奈川 (167人) | 2. 東京 (11人) | 静岡 (3人) | 4. 千葉 (1人) | 5. 埼玉 (6人) | 6. それ以外(3人) |
|---------------|-------------|---------|------------|------------|-------------|

Q4-1 現在、住んでいる地域に関してどのようなニュースが気になりますか。(複数回答可)

- | | | | | |
|-------------------|-------------------------------|-------------------|--------------------|----------------|
| 1. 最新ニュース (15.5%) | 2. グルメ (16.0%) | 3. ショッピング (13.0%) | 4. レジャー・観光 (14.8%) | |
| 5. ライフ (3.3%) | 6. イベント情報 (9.3%) | 7. 天気 (18.8%) | 8. 騒音問題 (1.5%) | 9. ゴミ問題 (1.3%) |
| 10. その他 (1.0%) | 11. 住んでいる地域のニュースに興味がない (5.5%) | | | |

Q5 インターネット (SNSも含む) やスマートフォンでどのようなニュースに1番触れることが多いですか。

(複数回答可)

- | | | | | |
|-----------------|----------------|------------------|-----------------|-----------------------------------|
| 1.国内 (13.9%) | 2. 国際 (10.5%) | 3. 経済 (3.9%) | 4. エンタメ (23.4%) | 5.スポーツ (11.4%) |
| 6. IT・科学 (2.7%) | 7. ライフ (5.0%) | 8. 地域 (1.1%) | 9. ビジネス (2.3%) | 10. 政治 (5.0%) |
| 11. グルメ (7.5%) | 12. コラム (4.3%) | 13. 恋愛・女性 (6.4%) | 14. その他 (1.4%) | 15. インターネットを利用してニュースを全く見ない (1.4%) |

Q6 現在住んでいる場所で下記のいずれかの問題が起こったこと、または下記の問題で悩んだことがありますか。またどのような問題だったか詳しく教えてください。例) 家の近所の寺院でフクガキが問題になった など...

	当てはまるものに○	詳細
1. 人の大声による騒音	17.5%	
2. 交通機関や航空機による騒音	19.6%	
3. 空気の汚染	6.2%	
4. ゴミの放置	10.8%	
5. フクガキ	3.1%	

Q7 海の家の音楽イベント（音重など）に何度行ったことがありますか。（複数可）

1. 一度だけ (14人) 2. 2回 (3人) 3. 3回 (1人) 4. 4回 (1人) 5. 5回以上 (1人)
6. 行ったことがない (172人) (6. と回答した方は Q8へ)

Q7-2 海の家の音楽イベント（音重など）に行った目的を教えてください。（複数可）

1. 出演者が好きだったから (11人) 2. 海もイベントも楽しみたかったから (5人)
3. 海の家ではしゃぎたい気分だったから (1人) 4. 出演者が知り合いだったから (0人)
5. 付き合いで行くことになったから (6人) 6. 夏らしい事がしたかったから (3人)
7. そのイベントそのものが好きだったから (1人) 8. その他 (1人)

Q8 深夜の音楽イベントに何度行ったことがありますか。 ※深夜23時半頃から朝まで行われるようなイベント

1. 一度だけ (12人) 2. 2回 (10人) 3. 3回 (6人) 4. 4回 (3人) 5. 5回以上 (2人)
6. 行ったことはない (158人) (6. と回答した方は Q9へ)

Q8-1 深夜の音楽イベントに行った目的を教えてください。（複数可）

1. 出演者が好きだったから (12人) 2. 飲みたい気分だったから (2人)
3. はしゃぎたい気分だったから (4人) 4. 出演者に知り合いがあったから (4人)
5. 付き合いで行くことになったから (7人) 6. 夜に踊ったりして遊びたいから (2人)
7. そのイベントそのものが好きだったから (1人) 8. その他 (2人)

Q9 音楽の野外フェスティバルに何度行ったことがありますか。

1. 一度だけ (22人) 2. 2回 (15人) 3. 3回 (7人) 4. 4回 (3人) 5. 5回以上 (4人)
6. 行ったことはない (139人) (6. と回答した方は Q10へ)

Q9-1 音楽の野外フェスティバルに行った目的を教えてください。（複数可）

1. 出演者が好きだったから (39人) 2. 開放的になりたかったから (3人)
3. はしゃぎたい気分だったから (9人) 4. 出演者に知り合いがあったから (2人)
5. 付き合いで行くことになったから (11人) 6. 大きな音で楽しみたいから (8人)
7. そのイベントそのものが好きだったから (5人) 8. その他 (3人)

Q10 この中であてはまる内容に○をつけてください。（複数可）

	知っている	友達や家族との会話で、この話題になった	ニュースで見た	インターネット (SNS を含む) やスマートフォンでの規制のことがあった	知らない
1. 海の家のクラブ化、ディスコ化が問題になっている事	44人	3人	26人	6人	108人
2. 海の家で近隣から騒音に対する苦情が出ている事	49人	5人	27人	8人	91人
3. 海の家で音楽が完全禁止になった事	38人	5人	27人	7人	105人
4. Bar などクラブ以外の深夜営業を行うお店で規制がかかるかもしれない事	35人	3人	15人	6人	120人
5. 日本のクラブイベントでフロアの照度に規制がある事	22人	2人	6人	0人	141人
6. 日本のクラブイベントでフロアの広さに規制がある事	15人	4人	4人	1人	148人
7. 日本で規制により24時以降のダンスが規制されている事	18人	1人	6人	1人	146人
8. 音楽の野外フェスティバルにおいて騒音問題で苦情がでている事	40人	1人	18人	9人	106人

Q11 日本では規制によりクラブやライブハウスで24時以降のダンスが禁止されていたことについてどう思いますか。

- 必要な規制だ 1 - 2 - 3 - 4 - 5 必要のない規制だ (2.75)
24時以降にダンスをすることは問題ない 1 - 2 - 3 - 4 - 5 24時以降にダンスをすべきではない (2.75)
音楽やダンスの幅が狭まると思う 1 - 2 - 3 - 4 - 5 音楽やダンスの幅は変わらないと思う (2.99)
日本の規制は厳しすぎる 1 - 2 - 3 - 4 - 5 日本の規制は緩すぎる (2.75)
音楽やダンスは自由に表現されるべきだ 1 - 2 - 3 - 4 - 5 音楽やダンスには規制が必要だ (2.27)
この規制は自分にも関係あると思う 1 - 2 - 3 - 4 - 5 この規制は自分には関係ない (3.38)
この規制に興味を持った 1 - 2 - 3 - 4 - 5 この規制に興味はない (3.21)

Q12 一部の海の家ではライブハウス営業が規制されていることについてどう思いますか。

- 必要な規制だ 1 - 2 - 3 - 4 - 5 必要のない規制だ (2.56)
海の家のライブハウス営業は問題ない 1 - 2 - 3 - 4 - 5 海の家でライブハウス営業をすべきではない (3.08)
夏の遊びの幅が狭まると思う 1 - 2 - 3 - 4 - 5 夏の遊びの幅は変わらないと思う (2.99)
日本の規制は厳しすぎる 1 - 2 - 3 - 4 - 5 日本の規制は緩すぎる (2.91)
海の家は自由に営業されるべきだ 1 - 2 - 3 - 4 - 5 海の家には規制が必要だ (3.08)
この規制は自分にも関係あると思う 1 - 2 - 3 - 4 - 5 この規制は自分には関係ない (3.48)
この規制に興味を持った 1 - 2 - 3 - 4 - 5 この規制に興味はない (3.33)

Q16 政治に関心がありますか？

関心がある 1 - 2 - 3 - 4 - 5 興味がない

Q17 選挙に行った事がありますか、または20歳になったら行きたいと思いませんか。

1. 行った事がある (24人) 2. 行った事がない (101人)
3. 20歳になったら行きたい (56人) 4. 20歳になっても行きたくない (9人)

Q18 ボランティアに参加した事がありますか。

1. 参加した事がある (119人) 2. 参加した事がない (40人)
3. 参加したいと思った事がある (23人)

Q19 SNSなどの他人が見る媒体で自分の考えた意見を書き込んだ事がありますか。

1. 書き込みした事がある (92人) 2. 書き込みした事がない (79人)
3. 書き込みしたいと思った事がある (18人)

以上となります、ご協力ありがとうございました。

Q18 音楽の野外フェスが規制される恐れがあることについてどう考えますか。

(開催自体が禁止になる可能性や、音量を下げたの開催となる可能性)

必要な規制だ 1 - 2 - 3 - 4 - 5 必要のない規制だ (3.08)
野外フェスが行われることは問題ない 1 - 2 - 3 - 4 - 5 野外フェスはすべきではない (2.21)
幅が狭まると思う 1 - 2 - 3 - 4 - 5 音楽やダンスの幅は変わらないと思う (2.64)
日本の規制は厳しすぎる 1 - 2 - 3 - 4 - 5 日本の規制は緩すぎる (2.69)
音楽やダンスは自由に表現されるべきだ 1 - 2 - 3 - 4 - 5 音楽やダンスには規制が必要だ (2.29)
この規制は自分にも関係あると思う 1 - 2 - 3 - 4 - 5 この規制は自分には関係ない (3.03)
この規制に興味を持った 1 - 2 - 3 - 4 - 5 この規制に興味はない (3.02)

Q14 ダンスが規制されたり、海の家でのイベントが禁止されたりするなど、

日本でこのような法が定められているとどう思いますか。(最も当てはまるもの1つに○)

1. 時間や場所によってはやむを得ないと思う (88人)
2. 規制はそれなりに必要であると思う (40人)
3. 音楽はもっと自由に表現されるべきであると思う (22人)
4. 興味がない / 何とも思わない (36人)
5. その他 (0人)

Q15 設問1~6それぞれのあてはまる場所に○をつけてください。

	より自由な方が 良い	やや自由な方が 良い	どちらともいえ ない	やや規制や制約が 強い方が良い	より規制や制約 が強い方が良い
1. 家に帰る時間			(平均: 1.84)		
2. 校則			(平均: 2.37)		
3. 芸術作品や本の表現			(平均: 1.82)		
4. ヘイトスピーチ			(平均: 2.56)		
5. 個人の信仰している 宗教や思想			(平均: 2.22)		
6. 婚約指手			(平均: 1.51)		